



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリーに輝きを」 Light Up Rotary

2014-15年度 RI会長/ゲイリーC.K.ホアン RI.D2590ガバナー/大野 清一 横浜旭RC会長/増田嘉一郎

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F
TEL.045-365-3273
FAX.045-365-3132
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日/12時30分~1時30分



2015年1月21日 第2183回例会 VOL. 46 No. 27

- 司 会 副SAA 二宮麻理子
- 開会点鐘 会 長 増田嘉一郎
- 斉 唱 我等の生業
SL 市川 慎二

■出席報告

会 員 数	34 名	本日の出席数	26 名
本日の出席率	86.67%	修正出席率	96.55%

■本日の欠席者

五十嵐、松本、鈴木、佐藤（真）

■ゲスト

坪井 均殿
(難民を助ける会)

■会長報告

1) 昨日、1月20日は二十四節気の24番目大寒でした。文字のどおり寒さが1番厳しい日ということです。

大寒の日の朝の水は、1年間腐らないとされており、その水を納戸に保管する慣習もあるそうです。北海道や石川では、暖かい暖房のきいた部屋でアイスクリームを食べるのが、最高の贅沢とされています。

2) 先週、第4回クラブ協議会が開かれました。下期の活動を各委員長に報告していただきました。

活動計画書にも記載されているものがほと

んどですが、下期においても楽しい活動が予定されており、また会員増強をお願いしている手前、皆さんが入会候補者への活動の説明に困らないためにも、改めて主なものを説明しておきます。

まず親睦委員会は、「この指とまれ」の企画で、1月24日に蟹を食べに行くプログラムが現在募集中です。前の情報集会のご意見に従って、親睦委員会に特にお願いした企画ですので、是非ご参加下さい。

この企画でもう1つ、料理教室が予定されています。親睦旅行は、5月の末から6月中旬頃になりますが、震災復興支援委員会との合同企画で、東北の被災地の温泉へ、岩沼ロータリークラブと合同での旅行を予定しています。

雑誌委員会では、上期と同様「ロータリーの友」を人が集まる店舗のロビーに置いてもらえる事業所を求めています。お心当たりがありましたなら、五十嵐委員長までお願いします。この計画のために、毎月「ロータリーの友」を5冊位余分に購入していますので、ご協力をお願いします。

プログラム委員会では、当初計画では2月25日が体験例会となっていました、その日はIMが予定されています。鶴見区文化セン

ターで午後1時登録開始で、テーマは「横浜の歴史に学び、未来を語る」ということで行われます。当日は移動例会になります。

会員増強・職業分類委員会が行う体験例会は、3月25日に変更になっています。

研修・ロータリー情報・広報・IT委員会では、入会3年未満の会員に地区とは別に、当クラブでも、楽しい研修の機会を計画されています。

職業奉仕委員会は、下期はロータリアンとして本来の、各人の事業での奉仕に励んで下さいとのことです。

青少年奉仕・インターアクト委員会は、ガールスカウトと合同の清掃奉仕が4月11日に予定されています。ロータリーを地域へアピールしたいと思います。

国際奉仕委員会では、「NPO法人アジアの女性と子どものネットワーク」への寄附をお願いしましたが、このNPOでは書き損じ葉書も集めておりますので、皆様のご協力をお願いします。

米山記念奨学金委員会では、目標である特別寄附2万円に到達されていない方が何人かおられるようですので、改めてお願いすることです。2590地区は、寄附達成率1位を長年維持してきており、1人2万円を地区方針としたがガバナーの期待を裏切らないようにしたいです。

もう1つ。第5グループの7クラブ合同例会が、4月17日新横浜国際ホテルで、午後6時から開かれます。お隣の瀬谷ロータリークラブがホストクラブですので、大勢の参加をお願いします。

クラブ協議会で報告された下期の各委員会の主な活動は、このようなことでした。盛り沢山の内容となっており、楽しい充実したクラブ生活が計画されておりますので、ご期待下さい。

■幹事報告

1) 例会臨時変更のおしらせ

○横浜南陵ロータリークラブ

日時 1月22日(木) 点鐘12時30分

場所 横浜市資源リサイクル事業協同組合

○大和ロータリークラブ

日時 2月10日(火)夜間移動例会

日時 3月3日(火)→8日(日)

第6グループIMに振替の為休会

日時 3月10日(火)夜間移動例会

53周年記念例会

2) 神奈川ロータリークラブより卓話ご案内

日時 1月26日(月) 点鐘12時30分

場所 ホテルキャメロットジャパン

5階ジュビリーI

卓話者 桑原薫地区R情報・広報・IT委員長

テーマ 「ロータリー理解推進卓話」

ビジターフィー 3,500円

*準備の都合上、事務局までご連絡下さい

FAX 045-313-3652

■新横浜ロータリークラブより

○南アフリカ学習者成績書送付の件

新春の候、益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は南アフリカ学習者支援プロジェクトにご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

この度皆様のご支援により南アフリカ共和国で学校に通っている子ども達の2014年度1学期から3学期の成績証明書が届きましたのでお知らせいたします。また、それだけでなく、日本のロータリアンに対し、子ども達から「御礼の動画」「お礼の写真」のたくさん届けられました。当支援は単なる学習支援ではありません。1日1回の給食は、彼ら1日の食事となります。彼らが生きる為の支援でもあります。彼らは本当に感謝しています。

お陰様で支援して頂いた子ども達は元気に学校に通い、勉強にスポーツに健やかに学校生活を過ごしております。彼らのご両親になりかわり、厚くお礼申し上げます。

また、2015年度1月より新年度となります。つきましては継続して子ども達の支援をお願いしたく、是非ご検討いただきご協力の程、お願い申し上げます。

なお、ご寄付申込は、国際理解月間の2月

未締め切りを考えております。

*詳細は、新横浜ロータリークラブのホームページの南アフリカ学習者支援プロジェクトをご覧ください。

■国際奉仕委員会 青木 邦弘

○お知らせ

1) 次週の例会 1/28 に、書き損じの葉書を集めたいと思います。未記入の年賀状など、ご持参下さい。

2) アジアの女性と子どもの会の募金が 65,000 円集まりました。委員会より 5,000 円の募金、合計 70,000 円を送金しました。

■雑誌委員会 二宮麻理子

○ロータリーの友 1 月号の紹介

・横書き

3 ページ

RI 会長のメッセージが載っています。ロータリーの活動をより多くの方に知っていただくための「ロータリーデー」についてどのように活動すればよいのかが語られています。

7 ページ

ロータリー理解推進月間ロータリーを知って情報発信

ホームページや Facebook などの SNS を活用して、ロータリアン以外の方への情報発信をしているクラブの紹介。ホームページを通じて各クラブの魅力が伝えられています。

13 ページ

視覚に訴えてロータリーのイメージ向上
ロータリーのロゴが新しくなったことが紹介されています。

18 ページ

各地区、クラブのロータリーデーの活動が紹介されています。

クラブの創立記念日にロータリーデーとして地域の方も出席してのチャリティーパーティーや大学生を招待してのロータリーデーなど、どれも各クラブ様々な方法でロータリーデーを開催しているようです。

ボランティア活動をしている大学生を招待しての交流は若い人にロータリーを知ってもらうための機会として、有効ではないかと思

いました。

23 ページ

43 回ロータリー研究レポートについて
レポートの中で新しい発想で創立されたクラブの事例が紹介されています。

難しい事だとは思いますが、例会の開催時間、食事の有無や内容を見直し、工夫することが、会員を増やすことにつながるのではないかと思います。

・縦書きページ

21 ページ

吉原則光会員の作品が載っています

22 ページ ロータリーアットワーク

各クラブ、地区での活動が写真などで紹介されています。

■情報集会報告

A グループ 秋内 繁

日時 1 月 14 日(水)

場所 仕立屋

参加者 五十嵐 杉山 秋内(会員敬称略)
議題

1) 当クラブが取るべき財政改革について

・会費値上げの案もあるが、現在の収入支出を考えると削るものを削っていくことが必要

・収支のバランスが取れていない

・一般企業でいえば倒産となる状況

・現事務所も使用の現状からみれば、解約が妥当では？

・昔は会員数 50-60 名の頃もあり財政的に余裕があったが、今後会員数が大きく増えることは期待できない。

・他にも削減できるものは削減していかねば。

・会費値上げは、これらの削減の後の話。

・会費とは別であるが、当クラブのニコニコ箱への寄付頻度は高い。他の寄付も多いと思われる。

・例会での食事の必要有無については、食事は楽しみであり、なごみのツールでもある。必要だと思う。

2) 今年度の会員増強について

・一人追っていた人がいたが、会社の方針で不可。

- ・Aグループは今回参加者が3名であり、有力な候補者はなし。
- ・今後他のメンバーと協議予定。

Cグループ

二宮麻理子

日時 1月14日(水)

場所 仕立屋

岡田、増田、田川、市川、吉野、倉本、

佐藤(真)、後藤 (会員敬称略)

- 1) 当クラブが取るべき財政改革について今出来ることから始めるということであれば
 - ・現事務所の賃貸借契約の解約がいいのではないか。
 - ・事務所を移転しても事務局員はそのままが望ましい。
 - ・事務所を移転し、駅から離れての場合はタクシーを使ったらどうか。(賃料が軽減された場合)
 - ・会の運営が厳しいのであれば会費の値上げをしたらいいのではないか。会費を値上げしてそれから移転はそれから考える。
 - ・半期20,000円はどうか。新会員が入会しても財政難の話ばかりで魅力がない。会費を値上げした場合、より一層魅力のあるクラブに活性化しおらかなクラブになるようにする。
 - ・今の例会場では食事なしでは会場費を支払うことになるので、難しい。
 - ・お客様がいらした場合には、食事なしでの対応をどのようにするか、検討が必要になる。
- 2) Cグループでは、候補者はあがっていません。

■ニコニコBOX(会員敬称略)

増田嘉一郎／①本当に寒いですね。健康にご留意下さい。②坪井さま、興味をもって聞かせていただきます。よろしくお願いします。

漆原恵利子／坪井様、ご多忙中、本日はようこそおいで下さいました。卓話、興味深いお話を楽しみにしています。日本人が人質に取られるなど、不穏な世界情勢ですが、人々が幸福に暮らせる世の中を願ってやみません。

安藤 公一／①坪井さん、卓話宜しくお聞きします。世界の難民のお話、援助活動等お聞かせ下さい。②家内の誕生日に、お花ありがとうございました。喜んでおりました。

桜田 裕子／寒中お見舞い申し上げます。年末にひいた風邪がこじれて約1か月、咳に悩まされましたが、ようやく元気になりました。皆様も体調に気をつけてお過ごし下さい。健康の大切さを改めて感じました。

佐藤 利明／①久しぶりに横浜にぎわい座で落語を楽しみました。川瀬さん、お世話になりました。②妻の誕生日にお花を頂きました。大変喜んでおりました。有難うございました。

福村 正／兵藤先生、1/18の左近山街おこしイベントの応援ありがとうございました。馬吉師匠の唄はおもしろかったですよ。大勢のお年寄りが初笑いを楽しんでいました。

安藤 達雄／坪井様、本日はお寒い中、当クラブの卓話にお越し下さいまして誠にありがとうございます。よろしく願い申し上げます。

岡田 清七／坪井さん、本日は卓話ありがとうございます。勉強させていただきます。

青木 邦弘／坪井様、今日は卓話楽しみです。

田川 富男／会場設営もある意味で楽しい奉仕活動だと思います。

秋内 繁／関口さん、楽しいひとときを有難うございました。これからはパットはツアーパットで何でもOKです。

市川 慎二／坪井様、本日は卓話宜しくお聞き致します。

千葉 和裕(元会員)／関口さん、先日はお世話になりました。

■卓話

「ミャンマー・シリア・東北。支援を支えるもの」
坪井ひとし

皆さんこんにちは。ご紹介いただいた、坪井ひとしです。難民を助ける会、というNGOで活動しています。本日は、その活動のお話しをさせていただくのですが、その前に、お祝いの言葉を申し述べたいと思います。



お集まりのロータリアンのみなさん、横浜旭ロータリークラブ45周年、おめでとうございます。みなさんが、長年にわたって、奉仕の気持ちを広め、地域社会のために、そして国際協力、ひいては平和のために、力を注いで来られた。そして、45周年を迎えられた。素晴らしいことだと思います。

皆さんは45周年、ということですが、私が活動する難民を助ける会は今から2ヵ月前に、35周年を迎えました。10年ほど後輩、ということになります。組織ができた経緯は異なりますが、市民による活動を通じて国際協力や平和を目指す、という面では共通するものがあります。私には、横浜旭ロータリークラブが、難民を助ける会のいわば先輩、と感じられます。

難民を助ける会は現在、14カ国で活動しています。職員は、80数名。そのうち約30名を海外に派遣しています。事務所にはボランティアも大勢集まります。海外事務所には200名余の現地スタッフがいます。東日本大震災の被災者支援もおこなっています。

今日は、その中で、ミャンマー、シリア、そして東北についてお話しします。

ミャンマーは、ご存知のように、軍事政権から民政化されて5年。世界から熱い注目を浴びています。難民を助ける会は、民主化にともない、従来から実施していたヤンゴンにおける事業に加えて、カレン州のパアンという町にも事務所を構えて、活動を展開しています。

パアンは、カレン州の州都なんですが、人口5万人ほどの田舎町です。外国人が住むのは初めてです。そこで、水道やトイレを作ったり、そういったことをやっています。

最初、事務所にふさわしい建物が見つかって、契約できるようになりました。ところが、契約書を持って大家のところに行ったら、「あの話はなかったことにしてくれ」と言われました。どうも警察が裏で、外国人に貸すな、とささやいた様子です。中央政府が民主化の方向に進み始めても、地方はすぐには付いていってなかったんですね。もう一度、事務所探しをしなければなりませんでした。

経験豊富な男性職員と、少し若い女性職員を送り込んだんですが、住んでみると、住みやすい面に気付きます。最初は、「日本人が住むことになった」と大騒ぎです。そのうちに、「どうもあの二人は夫婦ではないらしい」とか、たまにいく食堂があるのですが、どちらかが日本に出張して一人でその食堂に行くと、「あの男性のほうは今日はどうしたんだ」と心配してくれたり、そんな町です。

それまでは、民主化の前、西暦2000年から障がい者を支援する事業を当時の首都ヤンゴン、昔のラングーンですね、そこで継続していたのですが、民主化されて、紛争中には活動できなかった地域でも支援ができるようになりました。少数民族の支援や、紛争中に国内の別のところに避難していた人たち自らの故郷に戻るのを支援する、そういう事業を行っています。必要なことは何でもやるんですが、今はまず、先ほど申し上げたように水道やトイレの設置をやっています。

実は最初、その活動の中に、地雷の事故や被害を防ぐ活動を盛り込んでいました。長く続いた内紛で、数多くの地雷が残っており、一方、村人は自分の戻ってきた故郷に地雷が残っていることを知りません。もともとヤンゴンで活動していた私たちは、ミャンマー政府が地雷の存在を公には認めていないことを知っていました。そこで、まずミャンマーの

中央政府と協議しました。うまく行きました。地雷の問題を政府も認めて、難民を助ける会がカレン州で活動することを認めてくれたのです。私たちは、ビルマ語で地雷の危険性を訴えるパンフレットや、こども向けには紙芝居を作り、印刷しました。村で活動を始めようとなりました。

ところが、「待った」がかかりました。活動はストップします。待ったをかけたのは、パアンの行政でした。中央はOKだったのに、現場の行政がNO。あとから考えれば、起こり得る事態でしたが、中央政府の了解を取って喜んだ私たちは、詰めが甘かったようです。

それから私たちは、パアンの住民と行政も巻き込んで、地雷の事故を回避する事業以外で、住民たちがAARに期待する活動を調べました。そして、水道の整備やトイレの設置を始めたのです。作成してしまった地雷のパンフレットや紙芝居は、中央政府のひざ元で活動する別のNGOに提供して、活用してもらっています。

シリアでは、紛争を逃れて国外に出た難民が380万人を超えています。国内避難民も650万人を超えています。紛争などで住みなれた土地を離れ海外にでた人たちを難民と呼んでいます。国内で移動した人のことは国内避難民、と呼んでいます。2,300万人足らずの人口の半数近くが住みなれた家を捨てなければならない状態です。

シリア国内の紛争は、2011年に、自由シリア軍など反政府運動側と政府の間で武力紛争が始まりました。それが、2014年6月に国家の樹立を一方的に宣言したイスラム国が大規模な侵攻をおこない、さらに多くの難民、国内避難民が発生してしまいました。

イスラム国は、名前は国家みたいですが、実態はテロ組織です。欧米からも、近隣の中東各国からも、国家として承認されていません。背景には、イラクとシリアにおける宗派間の対立や、近代国家の枠組みに対する反発がありました。ただ、建国を宣言しただけだ

はなく、イラクとシリアにまたがる地域で、独自の通貨も使い始め、税金を徴収し、国家予算もあります。スンニ派の国を作ろうとしているように見えます。即ち、ユダヤの人々がイスラエルという国家を作ったのと同じように、です。このような側面を持っていることが、多くの若者を海外から、それも非イスラムの若者を兵士として集める背景にあるようです。

私たちは、イスラム国ができる以前、すなわち自由シリア軍など反政府運動と政府軍による武力衝突の時期からシリア難民の支援を続けていました。難民は、隣の国である、トルコや、レバノン、ヨルダン、イラクなどに逃げていました。トルコ政府は、しっかりした難民受け入れ施設を建てましたが、100万人を超える難民が押し寄せ、入りきらない状態でした。私たちは、施設に入れない人々を支援しました。

そこに、昨年のイスラム国です。新たな20万人がトルコにやってきました。着の身着のまま逃れてきた家族は、子たくさんでした。クルド系の人々です。

クルド人は、国家を持っていません。国を持たない民族としては最大の規模で、3,500万人が、イラク、トルコ、シリアなどに広く住んでいます。それぞれの国で自治権の獲得や国家の樹立を目指しています。そのため、迫害も受けています。

トルコでも、激しい武装闘争があり、政府による弾圧もあって、ようやく2012年にトルコ政府とトルコにいるクルド人の組織する「クルド労働者党」との間で和平協議が始まっていますが、お互い根深い不信感を抱いています。

イスラム国のターゲットになったのも、クルド人でした。あつと言う間に、20万人を超す難民がトルコに入りました。既にトルコに入っていた親戚や知人を頼ってきた難民もいますが、とにかくチャーターバスが出るというので乗ってきた、という人も多くいました。

私たちは、難民が入ってきた町に新しい事務所を立ち上げて、支援を開始しました。3年前から続けている支援を開始した時と違って、様々な支援をした中で、新たに支援を始めなければならない点が大変でした。資金集めも、ままなりません。トルコ政府も、クルド人を支援することに、積極的ではありません。

流れ込んだ人々は、廃屋や倉庫などに住み始めました。食料や日用品の配付を始めました。その後、調理器具や日用品などの支援を続け、冬になり、防寒具やストーブ、手に入りにくい生鮮食材、先週は、りんごも配ったんですが、そういう活動を続けています。物資の配付が行き渡ったら、心のケアも含めた支援を進める予定です。

続いて、東北です。難民を助ける会では、これまでに宮城県、岩手県、福島県の3県を中心に、4年弱で、31億円を使って、活動してきました。被災の翌日に現地入りして、避難所を廻って、食料や必要な生活用品を届けました。お年寄りの住む施設や障がい者の施設の支援に力を注ぎました。医師と看護師を車や船で遠隔地に派遣して巡回診療も実施しました。やがて被災者が仮設住宅に移ると、必要な布団や家電製品などを配付します。心のケアも始めました。福島県では、放射線の影響を避けるため、屋外で遊ぶことがままならない子どもたちのために、室内で遊べる遊具を届けたり、図書スペースを設置しました。

その資金は、個人のみなさんから寄せられた寄付や、様々な企業からの寄付に加え、海外からも寄付が届きました。ジャパン・プラットフォームという、NGO・経済界・政府等が協力して緊急人道支援を実施する仕組みがあるのですが、そこに集まった資金も活用しました。

震災から4年近く経って、宮城県と岩手県での支援は限定的になってきましたが、福島県は、放射線のことがあるので、これからも長く支援していこうと考えています。

こう話すと、順調に活動を続けてきたように聞こえるかもしれませんが、水面下では大変なことも、たくさんありました。

最初、避難所の支援をします。すぐに、避難所に入れない人も大勢いることに気がきます。なかでも、高齢者や障がい者は、入居している施設から出られない人も多かったのですが、施設は遠隔地が多い。横浜では身近に良い施設がありますが、東北ではまだままだのようです。仙台市に少しあるぐらい。その遠隔地の施設に、支援が届いていない。建物は壊れたまま。食料も来ない。紙おむつはなくなってしまう…。宮城、岩手、福島、それぞれの施設に支援が必要だったんですが、始めはどこに施設があるかということも良く分らない。

試行錯誤したんですが、助けてくれたのは、障がい者を支援する団体でした。難民を助ける会は、海外で障がい者支援を行っている関係で、おつきあいがあったんですが、そこからいろんな情報をもらうことができました。

横浜旭ロータリークラブでも、ロータリークラブのネットワークを活用して岩沼の支援を開始された、と伺いました。日頃のおつきあい、と言いますか、ネットワークを持っていることが大切だ、と感じました。

阪神大震災のあと3～4年経つ頃、仮設住宅で自殺が相次ぐんですが、その背景に、被災者が人々から忘れ去られる、という状況がありました。これに気付いた地元神戸のテレビ局は、5年経っても、10年経っても、被災者たちを番組で取り上げ続けました。当時の報道デスクに聞いたら「いつまでも忘れずに気にかけているよ、と伝える、それが大切だ。」と言っていました。私たちも心がけたいと思います。

東北支援のチャリティコンサートも開催しました。協力してくれるトランペット奏者やバイオリニストがいました。被災地のそれぞれの町で開くコンサートは、被災者に楽しんでもらうためのコンサートで、入場無料です。

その報告を兼ねて最後に東京で開催するコンサートは有料です。東京のコンサートのチケット収入で、ツアーの費用を捻出しました。

横浜旭ロータリークラブのみなさんは、中学生、高校生のバンドによるチャリティコンサートを毎年開かれている、と聞きました。寄付をした方ももちろん、支援に参加する訳ですが、演奏した若い出演者にとっては、自ら演奏を披露すること自体がチャリティ活動になる。素晴らしい機会ですね。

ピーター・ドラッカーは、「市民性の創造」と言いました。現代の政治があまりに巨大で複雑なものになってしまい、市民として参加する機会がなくなって、投票と納税ぐらいになってしまった。

しかし、ボランティアとしてなら、一人ひとりの人間が、再び世の中を変えることができる。そして、市民が積極的・直接的に社会参加できる、そういう機会が与えられることが重要だ、として、これを「市民性の創造」と呼んだのです。

このピーター・ドラッカーの「市民性の創造」という考え方からすると、横浜旭ロータリークラブも、難民を助ける会も、それぞれの立場でまわりの皆さんに参加する機会を提供している、市民性の創造に貢献している「同志」

ということになります。

今後も、横浜旭ロータリークラブのみなさんが奉仕活動を続けられるのと同じように、難民を助ける会も地道に活動を続けて、40年、45年と、進んで参りたい、と考えていることをお伝えして、今日の私の話をしめくりたいと思います。

■「うめくさ」

久し振りに兵藤会員より投稿がありましたので…

有料老人ホーム会報より

- ①日帰りで 行ってみたいな 天国へ
- ②3時間 待って病名 「加齢です」
- ③2世帯を 建てたが息子に 嫁が来ぬ
- ④目覚ましの ベルはまだかと 起きて待つ
- ⑤少ないが 満額払う 散髪代

*うめくさ 原稿募集中です！

何でも構いません。今思っていること、話題になっている話など、ぜひお寄せ下さい。楽しい週報をつくっていきますので、よろしくお願い申し上げます。

■次週の卓話

2/4(水)

兵藤 哲夫 会員

週報担当 杉山 雅彦

2014～2015年度 持ち回り 理事・役員会議事録

日時 平成27年1月14日

方法 持ち回り

FAX送信先

新川 尚 青木邦弘 安藤公一 田川富男
佐藤真吾 福村 正 後藤英則 佐藤利明
漆原恵利子 内田 敏 齋藤善孝

発信者

増田嘉一郎

【審議事項】

黒瀬一敏会員退会の件

黒瀬一敏会員から退会する旨の書面が提出されたので、平成26年12月31日をもって退会とすることが承認された。